

[57]文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2339136>

出版情報：文學研究. 57, 1958-03-20. Faculty of Literature, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

彙報

○中山竹二郎名譽教授(英文学)

昭和三十三年三月三十一日附で定年退職、同年七月十六日附で名譽教授の称号を授与された。(九州大学)

○目加田 誠教授(中国文学)

昭和三十三年七月一日附、文学部長に併任された。

○進藤 誠一教授(仏文学)

昭和三十三年七月一日附、文学部長の併任を終了した。

○前川 俊一教授(英文学)

昭和三十三年十月十六日附教授に昇任された。

○毛利可信助教授(英文学)

昭和三十三年三月十六日附、分校より本学部へ転任された。

九州大学文学部文学関係講義題目

昭和三十三年第二学期 (自昭和三十三年十月至昭和三十三年三月)

| | | |
|------|---------------|------|
| 特殊講義 | 古代社会における言語と文学 | 福田教授 |
| 演習 | 万葉集 | " |
| 同 | 古代日本語の音韻 | " |
| 特研 | 国語学 | " |
| 演習 | 日本靈異記(上) | 春日助教 |
| 講義 | 日本文法(文章論) | " |
| 講義 | 徒然草 | 春日助教 |

講義 国文学史(古代漢文体 伝奇の問題)

講義 大和物語

演習 本朝文粹

枕草子研究

中国文学

唐代文学史

詩経(毛詩鄭箋)

西廂記講義

英文学

講義 英語学

演習 英語学

英国十九世紀文芸研究

演習 Shakespeare: Sonnets

特研 英文学

講義(1) Virginia Woolf: To the Lighthouse.

講義(2) P. M. Jones: English Critical Essays. (20th Century)

演習 Marlowe: Tragical History of Doctor Faustus.

講義 Galsworthy: Escape

講義 18th Century Prose

講義 英文学

講義 Thackeray: Vanity Fair

独文学

独語学概論

今井助教

"

"

六(分校)山助教

目加田教授

"

浜(分校)教授

"

毛利助教

ガードナー教師

前川教授

"

"

"

"

後(分校)藤教授

"

若荷教授

ガードナー教師

"

後(分校)藤教授

西田助教

| | | |
|---------|--|-----------|
| 講義 | トーマス・マン研究 | 高橋教授 |
| 講義 | フアウスト | 〃 |
| 演習 | 独文 学 | 〃 |
| 講義 | ジャン・パウロ | 西田助教 |
| 演習 | 中高ドイツ語(ハルトマン・ホン・アウエ) | 〃 |
| 講義 | 独文 学 | (分校) 石中教授 |
| 仏文 学 | サント・ブーヴ | 進藤教授 |
| 講義 | ラシーヌ「ブリタニキユス」 | 〃 |
| 演習 | スタンダール研究 | 〃 |
| 特研 | 仏文 学 | 生島教授 |
| 集中講義 | ルソ ー | 永田助教 |
| 特講 | Fontelle: Entretiens sur la Pluralité des Mondes | 〃 |
| 演習 | 十八世紀文学 | (分校) 佐藤教授 |
| 演習 | 一七世紀小説「フュルテエール」「ロマン」「ブルシヨワ」 | 〃 |
| 講義 | エルネスト・ルナン | 進藤教授 |
| 講義 | 「少青年期の思い出」 | 〃 |
| 講義 | メリメ「カルメン」 | 永田助教 |
| 講義 | ゲエノ Jeunesse de la France | 〃 |
| 講義 | ポール・クロードルの演劇 | (分校) 石助教授 |
| 言語学概論 | | 吉町助教 |
| アメリカ言語学 | 古代語 | 〃 |

ラテン語文法初歩
 外國語
 中国語演習
 中国語(三年・四年)
 英語
 英語
 独語講義
 仏語
 仏語
 露語初歩
 中国語初歩
 独語初歩
 仏語初歩
 露語初歩

九大国文学会

一、昭和三十三年卒業論文発表会並びに予餞会
 (昭三十二年二月三日 於三畏閣)

| | |
|------------------------|------|
| 東光講師 | (分校) |
| 影山講師 | |
| ガドナー教師 | (分校) |
| 三井助教 | (分校) |
| 山川助教 | (分校) |
| 佐藤助教 | (分校) |
| アルチエツ講師 | |
| 吉町助教 | |
| 影山講師 | (分校) |
| 林助教 | (分校) |
| 佐藤助教 | (分校) |
| 吉町助教 | |
| 建礼門院右京大夫集の研究 | 中司浩二 |
| 西鶴本「一目玉鉢」の研究 | 原武哲 |
| 伊勢物語の語法——主として助動詞について—— | 遠藤康子 |
| 万葉集の民俗学的研究——その信仰と生活と—— | 大熊猛夫 |

源氏物語字治十帖について

奥 作男

古事記成立の一考察 — 素材としての動植物について —

城戸 得江

続日本紀の宣命仮名について — 主としてその用字法 —

熊抱 季彦

方丈記における鴨長明について

白垣 政康

「中原中也」研究 — 詩の破調について —

秦 英乘

三宝 絵考 — 和漢混淆文の一断面 —

原 栄一

若き日の建部綾足

原 純子

志賀直哉研究

向江 泰

伊勢物語の形象方法とその基盤

末永喜美枝

平家物語の成長に関する研究のために

笠 栄治

ついで恒例の牛鍋で賑やかに予餞会を了えた。

一、九大国文学總會並びに研究発表会

（昭三十二年五月二十六日 於法文経第七演習室）

板行前のおくのほそ道の反響

「杉浦教授の「解釈と鑑賞」に関する贅説」白石 梯三

「鴨長明家集」考 — その成立年代について — 篠崎 久躬

中世歌論に見える言語意識の性格 佐田 智明

俳人野明について 大内 初夫

二葉亭の現実認識について 立川昭二郎

万葉集用字の視覚性

物語の 話術

今井源衛

總會終了後三畏閣にて懇親会

一、第七回西日本国語国文学会

（昭三十二年九月二十一—二十一日 於大分大学文学部）

旅寝論について

豊後風土記の伝本校本作成の経緯

花山院について

万葉集訓話の一方の解読をめぐる

「一往」・「限」の解読をめぐる

中世初期歌人の言語把握

一助詞・助動詞の扱い方をめぐって

杵島 曲序考

玉葉叙景歌の発生事情

おくのほそ道の構成

看聞御記に見えている

平曲関係の記事について

蕉風俳諧の成立過程における内在的諸契機

一 天和・貞享期における芭蕉

母音脱落の一解釈

実朝の歌一首

唱和詩の一問題

「は」の接続助詞用法について

公開講演会

大鏡について

敬語と文学

一、吉田精一講師国文学臨時講義

（昭三十二年十月二十四—二十九日「明治文学」）

なお十月二十八日午後一時半より四時まで吉田講師を囲む座

別府大 秦 行正

大分 佐藤 四信

九州大 今井 源衛

熊本 鶴 久

九大本 久

九大院 佐田 智明

九州大 森山 隆

大分大 鎌田 五郎

白杵高 釘宮 久男

鹿兒島大 木之下 正雅

福岡女子 北西 露太郎

熊本大学 石坂 正蔵

学部長・文博文 正蔵

談会を三畏閣にて催し、四十人余りの学生の活潑な質疑応答があつた。

一、九大国文学会例会

(昭三十二年十二月十四日 於法文經一番教室)

- 「おくのほそ道」の曾良の句について 白石 梯三
- キリシタン『懺悔録』の助動詞「つろう」 篠崎 久躬
- おしはかる「けり」について 佐田 智明
- ついで福田良輔教授の「古代日本語の一、二の動詞について」の講話があつた。

一、昭和三十三年十月卒業者論文題目及び氏名

狂言について 下田 久彦

一、進学生歓迎会(昭三十二年十一月十六日 於大会議室)

国語学国文学科は十五名の進学生を迎え、福田・春日・今井三先生他五十名ほどの出席者があり、茶話会を催した。

九大中国文学会

○中国文芸座談会

第四十七回(昭和三十三年四月二十九日)

於九大文学部会議室

- 一、魯迅「孤独者」をめぐる 中屋敷 宏
- 一、紅樓夢人物論 穴山 巖子

第四十八回(同) 年五月二十六日

於九大三畏閣

- 一、周立波の「民兵」について 倉員 峰雄
- 一、蘇曼殊の生涯 松崎 治之

第四十九回(同) 年六月十六日

於九大文学部会議室

- 一、周作人「新文学的要求」について 樋口 進
- 一、劉賓雁「橋梁工場にて」 前田 蒼子

第五十回(同) 年七月十四日

於九大文学部会議室

- 一、百花斉放、百家争鳴について 中屋敷 宏
- 一、魯迅「孤独者」について 北九大 真島 務

第五十一回(同) 年九月二十三日

- 一、百花斉放より丁玲批判まで 外河与志子
- 一、紅樓夢の構成 穴山 巖子

第五十二回(同) 年十一月二十四日

於九大文学部会議室

- 一、「桑乾河上」以前の丁玲 北九大 三浦 成雄
- 一、台湾では百花斉放をどう見たか 溝上 愧

第五十三回(同) 年十二月七日

於北九州大図書館会議室

- 一、丁玲について 北九大 畑 光正
- 一、郁達夫の青春 北九大 久富 正美
- 一、黄仲則の生涯 秋吉 勝広

○中国文芸座談会ノート No.10

(昭和三十三年六月一日発行)

- 一、唐代の短篇小説について 其の二 福井 耕二
- 一、夜の詩人 上尾 龍介
- 一、境遇に敗北した詩僧について 松崎 治之

一、胡適の文芸思潮

木島 廉之

九大英文学会

○日本英文学会全国大会(第六十九回)

五月二十五、六日の両日に亘り立教大学において開かれた。本学関係分は次の通りである。

日英両語の語順比較 神戸商大教授 三戸 雄一
チョウサアの二面性―「善女列伝」序

現代アメリカ国語における Have と Do have 長崎純心女子短大講師 比良 俊典
福岡学芸大助手 楠田 震

音声史資料としての Charles Butler の英文典について 鳥取大講師 林 哲郎

The World of William Saroyan

芝浦工大講師 広瀬 貞見

「新批評」のシムポジウムに於て山屋三郎氏、「英語学」で毛利可信氏(九大教養部)の発表があつた。

閉会前、中山名誉教授が特別講演をされた。

○進学生歓迎会

十月十九日三長閣にて開催、本年の新入生は男子十一名 女子五名

○日本英文学会九州支部大会

十一月九、十の両日鹿児島大学にて開く。本学関係分左の通り。

○From Hawthorne to Henry James

九大教養部助教授 多久和新爾

○On Henry James' 'The Private Life'

福岡大講師 田所 信成

○Henry James' 'The Wings of the Dove'

九大教養部助教授 森岡 栄

○スペイン・メキシコ時代のカリフォルニアの文学

熊本商大講師 井芹 龍成

○意識の流れの小説について

佐賀大講師 中野 行人

○グレアム・グリーンの小説における時間

西南大教授 石井 康一

○The Film 'Animal Farm' について

八幡大助教授 本田 司

○Faulkner: Light in August について

長崎大助教授 藤井 昌子

○チョオサアとカソリシズム―ポエティクス

「哲学の慰め」 長崎純心女子短大講師 比良 俊典

○エリオットとボードレール論―詩と散文

嘉穂高等学校 瓜生 善美

○伝達動詞の種類と語順―現代アメリカ英語の構造

福岡学芸大助手 楠田 震

○Attendant Circumstances について

長崎西高等学校 神田 弘慶

○英語劇公開

十一月十七日九大文化祭の一環として英文科学生(主に三年生)による英語劇が医学部講堂において公開された。題は次の

二つである。

シング作 "The Shadow of the Glen."

〃 "The Riders to the Sea."

○山屋講師臨時講義

法政大学教授山屋三郎氏は三十三年一月八日から十四日まで

「アメリカ文学」を講義された。

九大仏文学会

○福岡日仏協会発足

多年の懸案であつた福岡日仏協会の設立が具体化し、六月一日商工会議所で神戸のフランス総領事ペリユー・ジュ氏の来席を得て発会式が催され、規約の審議、役員を選出その他が行われた。終了後フランスの文化映画を上映。なお進藤教授は同会副会長に就任された。

○日本フランス文学会昭和三十三年度総会（於都立大学）

六月八日（土）研究発表会、懇親会

六月九日（日）分科会

本学からは進藤、佐藤（文）、城野の各先生及び大学院生・研究生等数名が出席。なお本学よりの研究発表は左の通り。

「ジャン・ジュネの自由と時間」

研究生 小柳 守弘

「ポール・ヴァレリーの初期作品をめぐって」（二十世紀分科会）
研究奨学生 有田 忠郎

○日本フランス文学会近畿支部総会が十月十九日（七）京都（於日仏学館）で行われ、本学から次のように研究発表があつた。

「スタンダールが文学史の方法に与える三つの基準について」

大学院生 太田 和男

○九州フランス文学会第六回総会（於九州大学）

十一月二日（土）

研究発表会（午前十時）

司会 九大教授 佐藤 文樹

一、ジョルジュ・サンドの転向 九大大学院生 荻野 雅弘

一、シャリエール夫人とパンジャマン・コンスタン 九大大学院生 奥村 温子

一、ヴォージュラの「フランス語注意書」について 九大大学院生 山崎 卓

一、ジュール・ロマンの詩法 九大研究生 高浜 保

一、ラシーヌ劇と自然 九大研究生 水波 純子

一、ラ・ブルイェールの虚栄心について 北九州大講師 坂本 勲

一、ポントネルの文学観 鹿児島大講師 田中 仁彦

一、「オクタヴィ」の成立過程について 長崎大講師 岡 隆

総 会（午後一時半） 九大助教授 石 進

司会 九大助教授 永田 英一

一、シャトーブリアンとブルースト 九大助教授 佐藤 弓高

一、フランスと近世の数学 九大教授 金原 誠

なお終了後、東中洲「エスキモー」で懇親会が催された。

○進学生歓迎会

新たに専攻生十五名を迎え、十一月十日(日)志賀島まで船で歓迎ピクニックが行われた。当日は進藤先生初め諸先生方、在學生多数が参加、賑やかであった。

○城野助教授は十一月、一年間の予定でフランスの Caen 大学に留学のため出発。なお引前講師は留学期間を更に一年間延長の予定である。

九大独文学会

○日本独文学会(一)

日本独文学会は昭和三十二年五月十九日及び廿日の両日に亘り、都立大学主催の下に、同大学に於いて総会並に研究発表会を開催した。

〔第一日〕五月十九日

総 会(都立大学講堂)

日本独文学会本部理事及び地方選出理事選挙に高橋義孝先生(本部理事)と石中象治先生(地方選出理事)が当選せられた。

研究発表(その一)

一、ヘルマン・ヘッセにおける内面への道(つづ)

後藤 武

一、ヘルマン・ヘッセの作品における Polarität の展開

古川 充二

一、トーマス・マンの「ドクトル・ファウスツス」について

山田 広明

一、ゲーテにおける象徴について

斎藤平四郎

一、ハインリッヒ・マン「臣民」について

富田 弘

一、リルケの未発表の書翰について

渡辺 格司

一、入門期のドイツ語指導について

樽井 近義

一、外来固有名詞の表記について

ルター独語の発表に関連して

塩谷 饒

一、And. 噪音組織の指導について

小島公一郎

会員懇親会 都立大学主催のもとに盛大に催せらる。

〔第二日〕五月廿日

研究発表(その二)

一、グリルパルツァーにおける道德的主体性の確立

青木 一行

一、「夢も人生」をめぐって

佐藤 自郎

一、「Erinnerung und Vergessen。」

一、Hölderlin の Denkrhythmus について—山本 尤

一、「ヒュペーリオン」の構成—タリーア稿を中心に—

坂上 泰助

一、Nietzsches Bedeutung für die Dichtung

des 20. Jahrhunderts

W・ゴスマン

一、ブレヒトの演劇論—「ムッター・クーラーシュ」

の上演をめぐって—

一、Gerhart Hauptmanns Atriden Tetralogie

E・ヤーン

一、「ファウスト」第二部の様式的問題 藤戸正二

一、ゲーテの「ファウスト」第二部

「古典的ワルプルギスの夜」について

一、ゲーテとワイマル

徳沢得二
大畑末吉

○日本独文学会(㊦)

日本独文学会は昭和三十二年十月十九日及び廿日の両日に亘り、東北大学主催の下に、同大学に於いて秋季研究発表会を開催した。

○日本独文学会西日本支部学会

日本独文学会西日本支部は昭和三十二年十一月十六・七の両日、熊本大学法文学部に於いて第九回総会並に研究発表会を開催した。

〔第一日〕十一月十六日

総会(熊本大学法文学部同窓会館)

西日本支部支部長選挙に高橋義孝先生が再び当選せられる。

研究発表(その一)

一、内面的形式と階層

古川充二

一、フォンターネに於けるロマンの課題について

一、トーマス・マンの自我について

横山嘉良

一、ブレントナーの「祖妣の日記」について

空井義観

中村正

会員懇親会

熊本大学主催のもとに水前寺荘に於いて盛大に催せらる。

〔第二日〕十一月十七日

研究発表会(その二)

一、権力と恩寵 —ラインホルト・シュナイダー

の思想についての一考察

一、ヘルダーリンの「ヒュペーリオン」について

大谷恒彦
高木勇

一、ケラー「馬子にも衣裳」について

一、西日本独逸語教育の問題

安部孝利
千代正一郎

受贈雑誌

立命館文学(立命館文学会)

アカデミヤ(南山学会)

Sumitomo Bank Review(住友銀行)

万葉(万葉学会)

経済月報(住友銀行)

彦根論叢(滋賀大学)

経営と経済(長崎大学経済学部産業経営研究所)

人文研究(神奈川大学人文学会)

国語国文(京都大学国文学会)

東京経済大学会誌(東京経済大学)

アメリカカーナ(アメリカ大使館)

法学志林(法政大学図書館)

郷土文化(郷土文化会)

一橋論叢(一橋大学)

日本民俗学(日本民俗学研究所)

文化(東北大学文学会)

心理学研究（日本心理学会）

山口大学文学会誌（山口大学）

日本文学（日本文学会）

国文学研究（早稲田大学図書館）

北九州大学論文集（北九州大学）

徳島大学文芸紀要（徳島大学）

音声学会会報（日本音声学会）

製鉄文化（八幡製鉄）

人文研究（大阪市立大学文学会）

成城文芸（成城大学）

甲南大学文学会論集（甲南大学）

国語（東京教育大学国語国文学研究室）

文学研究（日本文学研究会）

東北大学文学部研究年報（東北大学図書館）

天理大学学報（天理大学人文学会）

三重県立大学研究会報（三重県立大学）

山形大学紀要（山形大学）

大阪府立大学紀要（大阪府立大学）

東京支那学報（東京支那学会）

英米文学（浪速大学教育学部）

愛知大学文学論叢（愛知大学）

人文論叢（関西学院大学図書館）

文芸と思想（福岡女子大文学部）

アテネウム（アテネウム社）

大正大学研究紀要（大正大学）

熊本女子大学紀要（熊本女子大学）

大分大学学芸学部研究紀要（大分大学）

英語青年（研究社）

Regards（東北大学フランス文学会）

基督教研究（同志社大学）

主流（同志社大学英文学会）

逐次刊行物月報（国立国会図書館）

論究日本文学（立命館大学日本文学会）

紀要（愛知県立女子大学）